



地球は、宇宙から見ると、どうして青いの

海が青く見える

宇宙から地球をながめると、全体に青く見えて、所々に白い雲のうずが見えます。
地球の表面は、海と陸でできていますが、地球の表面の約70パーセントは、海におおわれています。

地球全体が青く見えるのは、海が青く見えることと、地球のまわりを、空気がとりまいているからです。

水や空気と太陽の光との組み合わせ

太陽の光は、赤・だいだい・黄・緑・青・あい・むらさきの、7つの色の光が混じりあっています。この光の中で、青い光は海の深い所までとどき、ほかの色の光は、海水に吸収されてしまいます。そして、青い光は海水の中にかが、プランクトンやごみなどの、小さいつぶにあたってはね返り、海が青く見えます。

地球をとりまいている大気は、空気のつぶとちりなどが混ざって、できています。太陽の光が、空気のつぶやちりなどにあたって、青い色の光を多く反射(はね返る)します。これも、地球が青く見える原因になっています。

地球全体が青く見えるのは、水や空気と太陽の光とが、うまく組み合わせさっているためです。地球のことを「水のわく星」、「青い地球」などといっています。

(監修・国司 真)

